

平成28年度 第2回 新潟市北区郷土博物館協議会 会議概要

日 時：平成29年3月22日（水） 午後3時 ～ 5時45分

場 所：新潟市北区郷土博物館 集会室

出席委員：9名

阿部紀夫、伊藤裕美子、小黒忠、小島勝治、里村洋子、杉本耕一、
鈴木梢、寺山知子、本間修一（敬称略）

欠席委員：田村祐一（敬称略）

傍聴者：なし

事務局：（北区郷土博物館）頓所洋一館長、神田直子主任（学芸員）、塩原賢信主査、
曾部珠世非常勤嘱託職員（歴史）

（北区地域課） 清水斎課長

新潟市職員：（博物館と新庁舎の複合化についての説明のため）

（北区） 佐々木勇副区長

（北区総務課） 高橋光久課長、吉澤秀則管理財務係長

（財務部財産活用課）江戸誠一財産経営推進室長、磯辺直孝財産経営推進室
係長

資 料：「北区役所新庁舎 基本構想策定に関する意見書 《概要版》平成29年2月15
日 北区役所新庁舎基本構想検討会議」 資料1、資料2、（当日配布）

会議概要

1 開会

司会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・塩原賢信主査

ただいまから平成28年度第2回目の新潟市北区郷土博物館協議会を開催します。

本日は田村委員が欠席ですが、ほか9名の委員が出席で、会議は成立しています。傍聴はありません。

2 杉本耕一協議会長あいさつ

本日は、平成28年度第2回新潟市北区郷土博物館協議会にご出席くださりまして、ありがとうございます。

博物館は、昨年11月にグランドオープンし、新たな活動を展開しています。本日は、報告事項として、新庁舎建設にともなう博物館の移転についての議題があります。議事は盛りだくさんですが、皆さまから活発な意見をいただいて、博物館がさらに発展するよう支援していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

3 清水斎課長あいさつ

委員の皆さまには、いつも大変お世話になっております。本日はご多用のところお集ま

りいただき、誠にありがとうございます。博物館では、秋にグランドオープンがありました。さらには北区の郷土芸能保存団体情報交換会、企画展「上田桑鳩展」、常設展拡大企画「遠藤七郎展」など、新しい館長の下で新たな取り組みがありました。今回の協議会では、博物館の今後についての話題がありますが、博物館をより良くしていこう、より多くの方々に周知していこう、そして北区の歴史をもっと知ってもらいたいという思いは、協議会委員の皆さまと同じだと思っています。たくさん意見交換をさせていただき、また次につながっていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

4 報告事項

司会（塩原主査）

本日は、「北区役所新庁舎基本構想策定に関する意見書」についての説明のために、佐々木副区長、高橋総務課長、吉澤総務課管理財務係長、財務部財産活用課財産経営推進室からは江戸室長、磯辺主査から出席していただいています。説明の後に、委員の皆さまからご意見をお聞かせいただきます。

（佐々木副区長）

皆さまにおかれましては、日頃、博物館の運営につきまして、多大な貢献をしていただいております。改めて感謝申し上げます。

新潟市では北区新庁舎の平成 32 年度の完成を目指し、現在検討を進めておりますが、皆さまへの説明が遅れまして申し訳ございませんでした。これまでの検討経過の資料と致しまして、医療福祉大学の丸田秋男先生をはじめ、自治協ほか団体から推薦を受けた委員からなります「北区役所新庁舎基本構想検討会議」での意見書があります。それから「葛塚地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ対策案」があります。これは地域の方々から選考して、ワークショップ形式で議論をしていただきましたものを「案」としてまとめたものです。その他にも、いろいろな方々からご意見をいただいているところでもあります。なかでも特に、公民館、コミュニティセンター、博物館と、新庁舎との多機能化・複合化、そして現庁舎の新館の活用が課題となっておりますが、博物館協議会委員の皆さまからは、これまでご意見を伺わないまま、対策案が作成された次第でございます。

新潟市といたしましては、これから市としての基本構想を策定していきますので、本日は皆さまにこの検討会議の意見書、そしてワークショップ対策案を資料としてご説明させていただき、それにつきまして、みなさまのご意見を承りたいと思っております。よろしくお願いたします。

（高橋総務課長）

（資料に基づいて、区役所の「多機能化・複合化」についての説明の後、「北区郷土博物館は、収蔵機能と展示機能を分離し、展示機能を新庁舎に移転すること」という意見が出されたことについて説明。さらにそれについての主な意見として資料 p. 6 に掲載された 3 つの意見（以下に掲載）を説明。）

- 博物館は、収蔵機能と展示機能を分離し、展示機能を新庁舎に移転すること
- <主な委員意見>

- ・市の類似施設の平均と比べ利用者一人当たりのコストが高く、利用者も少ない。管理運営面からも効率化が必要である。
- ・将来にわたって郷土の歴史を伝える重要な施設である。区役所新庁舎に展示機能移すことで、多くの来庁者に見てもらえる機会が増え、運営経費の削減につながる。また、地域の歴史を理解することで区の一体感の醸成につながる。
- ・世代間交流を目的とした企画展の開催など、ソフト事業の充実も併せて実施する必要がある。

「多機能化・複合化」の課題解決のためのワークショップとして示されたのが「葛塚地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ対策案」であり、「A」「B」「C」においていずれも博物館の展示機能と収蔵機能を分離し、展示機能のみを区庁舎に移転、収蔵機能を博物館から抜き取って、「廃止」という案になっていることが説明される。

A	展示機能	区庁舎	収蔵機能	郷土資料収蔵庫・その他の空きスペース
B	展示機能	区庁舎	収蔵機能	郷土資料収蔵庫・太田小学校
C	展示機能	区庁舎	収蔵機能	郷土資料収蔵庫・その他の空きスペース

このような意見をいただいているのが現状でございます。博物館協議会委員の皆さまから、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

司会（塩原主査）

ただいまの説明につきまして、ご意見・質問をお願いいたします。

<質疑応答>

（杉本会長）

ご説明いただいた資料 p.6 の多機能化・複合化についての意見の中で「市の類似施設の平均と比べ利用者一人当たりのコストが高く、利用者も少ない」という発言がありますが、この博物館と比較されたという「市の類似施設」というのはどこでしょうか。

（磯辺係長）

他区の資料館、博物館、それから美術館というものが約 20 あります。それらと比較させていただきました。

（杉本会長）

この博物館と同じような規模の、他の区の資料館などと比較するのはよいと思いますが、美術館は、博物館と性格が異なるので、それと比較するというのはおかしなことになると思うのですが。

さて本論ですが、博物館というものは、展示機能だけではなく、資料の収集や整理、保管などの機能もあります。展示機能は博物館の機能の一部でしかない。機能を分離して博物館が果たして成立するのか、ということについて私は疑問に思います。郷土の歴史を担う博物館の役割は、展示機能だけでは果たせない。機能を分離しては博物館本来の役割を果たすことはできないというのが私の考えです。

（本間委員）

博物館の機能を分離してでも新庁舎に移転するという考え方には、無理があると思いま

す。新庁舎における展示機能スペースの規模はどのくらいを想定しているのでしょうか。

博物館では、昨年 11 月に常設展をリニューアルオープンさせ、それと共に市民ガイドの活動も始まっています。また、先日まで開催していた「上田桑鳩展」は、新潟市内外だけでなく東京など遠方からも来館者があったわけですが、そういう企画展も今後は区庁舎で展示をするということになるわけですね。博物館の展覧会は、展示そのものの機能だけではなく、収蔵機能、研究機能といったいろんなものが合わさって、その上でできている。その一体化した機能を分離するのは難しいと思います、

(高橋課長)

現案がそのまま実現すれば、という前提ですが、基本的には現在の施設の展示機能の規模と同じになるかと思います。現在の機能は低下させないという方針です。検討会議での意見にもありますように「多くの来庁者にみてもらふ機会が増えるように」、また北区全体の一体感の醸成という理由からの「複合化」です。

(本間委員)

新庁舎に博物館の出先スペースを設けるということであれば、そこに博物館のパンフレットや地域を紹介するパンフレットなどを置いたりするインフォメーションコーナーとして活用することができるように思います。しかし、博物館の機能を分離して展示機能だけを持っていくというのは、現段階での説明ではイメージがつかめないのですが、無理があると思います。

(寺山委員)

新庁舎に設ける「展示スペース」とは、博物館はそのままの状態を保ちながら、博物館にとってのプラスアルファのスペースとして、より多くの方々に博物館を知っていただくために利用できるスペースだと思っていました。しかし、このワークショップで示された対策案をみてみますと、博物館は「売却・貸付」の対象とされています。つまり、この博物館はなくなるというわけなのですね。

(高橋課長)

博物館の展示機能を新庁舎に移転し、収蔵機能は郷土資料収蔵庫とほかのスペースに移すということです。この機能分離の作業が終われば、博物館は解体、土地は売却ということになります。

(寺山副会長)

それであれば、本間委員がおっしゃったように、よほどの広さが確保できない限り、現在の博物館活動を維持するのは無理でしょう。博物館は収蔵資料を、専門的に管理しています。資料を別々のところに分散した場合、どのように管理していくのか、また、管理が可能なのかといった不安が残ります。機能分離して新庁舎に一部を移転させることには反対です。

(本間委員)

太田小学校など収蔵庫ではないスペースに収蔵資料を保管するという話ですが、資料の管理のためには、さまざまな設備・機能が必要です。きちんとした設備が整えられるのか、そちらの方も簡単な話ではないと思います。

(伊藤委員)

江南区郷土資料館という複合施設の前例がありますので、博物館が新庁舎に移転すると

というのは賛成でした。ただ、具体的にどのくらいのスペースになるのか、現状と比べてどうなのか、具体的な数字が示されていないので、他の委員も心配されているのだと思います。実際、展示機能だけが新庁舎に移されたとして、展示のために資料を庁舎に運ぶといっても太田小学校は距離もあります。今、建設費だけのことを考えて節約した結果、出来上がったとしても不便になったということになりかねません。現在のクオリティーを保ったまま新庁舎に移転できるのであれば、来館者も多くなるでしょうから大賛成です。庁舎に博物館を入れるというアイデアには賛成です。

(高橋課長)

複合化によってほしい2割くらいの面積を減らすことができるというのが、全国的にみて一般的な実績です。ではその2割の面積をどこで減らすかということ、機械室や廊下、玄関といった共通で使用できる分がそれに相当します。それによって共有スペース分が節約できるということになり、独立した建物の2割が減じられることになるというわけです。このたびの複合化にあたっての新潟市の考え方も、機能低下を生じさせることなく、機能を保持したまま、公共施設を出来る限りコンパクトにしていこうというものです。経費を節約しながら高齢化社会における将来的なまちづくりのための長期的な構想です。

(鈴木委員)

この博物館が常設展示をリニューアルオープンさせたばかりなのに、複合化・移転といった問題が起こっています。それでは、これまでかかった経費は一体何だったのかという思いが一市民としてあります。行政の大きな流れと、博物館が内側から何とか良くしていこうとする改革の流れとがかみ合っていない。協議会委員の方でも博物館をより良くするために提言していますが、限られた少ない予算と人員でいろんなことをやるのは大変です。そういう大変な思いを博物館と共有しているこの協議会がある一方で、まったく別の見方で博物館を捉えている検討会(北区役所新庁舎基本構想検討会議)がある。ハードのことばかりが先行してソフトが置き去りにされているところに違和を感じます。

博物館とはこういうところだから機能分離してはいけないのだとか、あるいは機能分離せざるをえないならどういったところが問題でそれはどうやったらカバーできるのかなど、博物館の側からきちんと議論すべきことと思います。また、複合化する施設同士での話し合いなども必要だと思います。担当部局だけが、あちこちで出かけて話を聞いても全体が見えてこないと思います。

(江戸室長)

現状のまますべての公共施設を維持することは財源的な面でも不可能です。この博物館も老朽化していきますが、それでは博物館を建て替えることが出来るかといえば、それは非常に難しいと思います。今、区役所が新たに建設されるというチャンスがありますので、よい形で複合化することがよいと思います。博物館の部分の面積を何㎡にするかというお話は今ここではできないですが、我々としては、面積は減らすが、機能は維持するということを考えております。博物館の機能を維持しつつさらにプラスになるようにと考えています。今後のワークショップの中で、今日いただいた皆さまからのご意見をお伝えしたいと思います。

より良い形での複合化を実現させていきたいと思います。精一杯やらせていただきますのでよろしくお願いいたします。

(阿部委員)

新潟市と豊栄市の合併当初から、新庁舎をどこに建設するかという問題が検討されてきましたが、この段階にきて、当初はまったくなかった複合化という問題が浮上してきました。複合化ということですと、これまでの話と違うのではないかと思います。コミュニティセンターはまだ新しい。複合化に際して取り壊すとなればもったいないと思います。公民館は築40年くらいで、博物館は築36年。もっともたせるべきだと思う。それなのに新庁舎の建設地の関係で、区役所の入口が作れないという理由から公民館は取り壊さねばならない、コミュニティセンターも壊さねばならない。割り切れない思いです。

博物館について言えば、展示のためのスペースを確保するだけでは済まない。展示室として機能させるには設備を整えねばならない。それだけのことをやらねばなりません。

(里村委員)

この博物館はリニューアルしたばかりです。そして職員のみなさんが本当にがんばっておられます。この活動をそのまま新庁舎に移転した後もやっていけるかどうか、非常に心配です。「多機能化・複合化」という考え方ありきで博物館を新庁舎に入れるという考え方ではなくて、「この博物館はどうあるべきか」をまず考えるべきだと思います。

各地域にある博物館はそれぞれ特徴を持っているのでそれぞれ大事だと思うし、お金に換えることはできません。地域の博物館を大事にしてほしいと思います。

(小黒委員)

博物館には、歴史資料や民具だけでなく、郷土の書家弦巻松蔭の書作品のほかに松蔭がコレクションした文房具やミニチュアなどが6000点以上収蔵されています。またそのコレクションの中には松蔭の師匠で現代書の巨匠である上田桑鳩の作品も収蔵されています。このたび「上田桑鳩展」の開催で、大勢の来館者がありました。今後、移転するというのであれば、書作品は、農具とは一緒にしないで、別にして展示をするのがよいと思います。

(小島委員)

財源の関係があつて、切り詰めなければならないという事情は理解できましたが、文化的な面を削るという考え方はやめていただきたいと思います。文化的な面を充実させるのが行政の役割ではないか。複合化については、具体的な数字が示されていないわけですから、今のところ賛成も反対も表明しません。共有部分を減らすということはわかります。ただし、博物館独自の機能を持つスペースはきちんと確保してほしいと思います。また、博物館機能を移すというその「展示機能」とはなにかという問題がよく議論されないと中途半端なことになる恐れがあります。博物館の機能が十分に確保できるようにしてほしい。

(佐々木副区長)

皆さまからのご意見をいろいろと承りました。どれだけの面積を確保できるのかといったこともご説明しないまま、議論いただきまして恐縮でございました。

いったんまとめさせていただきますが、仮に、現在の展示機能の面積を確保できたとしても、博物館はほかに収蔵機能や研究機能もあり、そういったものが有機的に連携しておりますので、みなさまのご意見としては「分離する」ということ自体に反対であるということ承ってよろしいですね。

また、現在の博物館はこのままとして、プラスアルファの展示スペースがあってもよいのではないかとのご意見がありました。さらには、複合化するのであれば博物館をそ

のままそっくり移転するのがよいというご意見があったということでもよろしいでしょうか。
(阿部委員)

公民館のギャラリーは、さまざまな展覧会が催されており、大いに活用されています。また観覧者も多い。新庁舎に公民館のギャラリーを設営したとしても、それはそれで十分に活用されると思います。ギャラリーを博物館と共有させるのではなく、博物館は博物館としての独自の展示機能を考えるべきで、そのための設備が必要です。

(本間委員)

前に戻るようですが、最初に議論された「市の類似施設の平均と比べ利用者一人当たりのコストが高く、利用者も少ない」について、この博物館に類似する施設とはなにか、それから「コスト」「利用者数」という物差しではかることについて、一言申し述べたいですね。博物館などの文化施設については「質」の問題を物差しにしていかなないと本質がみえてこないと思います。

(伊藤委員)

私が複合に前向きな理由を申し上げます。博物館というのはまず文化財に出合える場所であること、人権教育のステージであると考えています。人権教育とは大切ですが難しい。複合施設になることによって、より多くの人々が文化財とふれあえる。複合してスペースが足りないのであれば、アグリパークのような場所を北区につくってもらってそちらで補えるようにしたらどうかとも思います。博物館の機能を十分に考えていただければ、複合には私は前向きです。

(寺山副会長)

ここでやってきた活動が果たして新庁舎内の博物館で可能かどうか、疑問です。例えば貸し切バスなどによる団体観覧などの場合、駐車場は十分に確保できるのかななどの問題もあるかとも思います。

(高橋課長)

会議の後でもよろしいですので、ほかにご意見がありましたら教えていただければと思います。基本構想はまだ策定されていません。いろんな意見をお聞きした上でやるべきだと考えています。そしてそのような姿勢で今後も進めていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

— 休 憩 —

5 議 事

司会 (塩原主査)

これから議事は、杉本会長に進行をお願いいたします。

(杉本会長)

では、議事に入りたいと思います。

まずは会議次第の議事(1)「平成28年度 新潟市北区郷土博物館事業」の後期分についての報告を博物館からお願いします。

(1) 平成28年度 新潟市北区郷土博物館事業報告について

(神田学芸員)

平成 28 年度新潟市北区郷土博物館事業について、＜資料 1＞に基づいて報告。

<質疑応答>

(杉本会長)

今年度の後期の事業報告について、なにか質問やご意見はありますか。

(伊藤委員)

「はんこで遊ぼう！」とか「こども博物館」など参加者が書いてありますが、定員は何名ですか。

(頓所館長)

定員はだいたい 10 名から 15 名です。「こども博物館」は募集しても人数が集まらなかったという事情でお休みしていたという経緯があります。対象は小学校 4 年生以上ですが、子どもたちにとって忙しくなる時期でもあり、「こども博物館」を再開するとしてもなかなか集まりにくいだろうということで、このくらいの定員を想定しました。

(杉本会長)

どういう形で募集の周知をしたのですか。

(頓所館長)

博物館で作成するチラシや区報等で行いました。チラシの配布は、近隣の学校の対象児童全員に、あるいは地域の子ども会育成会等へ働きかけて行いました。しかし結果は、なかなか集まりませんでした。

(寺山副会長)

小学校 4 年生以上ですと、実際忙しくなる時期ですので、もっと年齢を下げてはどうでしょうか。

(頓所館長)

小さい子どもですと、道具を使う講座は難しいです。スタッフがたくさんいて子どもを補助するかたちがとれば可能な講座もあるかもしれませんが。

(杉本会長)

「むかしのあそび」であれば、小さい子どもでも大丈夫かもしれませんね。

(頓所館長)

そうですね。ただ、前期でやりました「勾玉づくり」や後期の「はんこ」は刃物を使いますので、小さな子どもには無理があるものが多いです。

(伊藤委員)

「ふるさと学習」は、小学校 3 年生が対象ですが、講座の対象も 3 年生に引き下げられないのでしょうか。学習と体験とが連動すると良いと思うのですが。また、「ふるさと学習」の利用状況なども教えてください。

(頓所館長)

昨年度は、耐震診断の結果を受けて、これまで横井の丘ふるさと資料館で行っていた「ふるさと学習」を、本館の博物館で行っていただくようお願いをしたこともあり、横井の丘で 1 校、博物館で 2 校から実施していただきました。今年度は、常設展示リニューアルと「昭和のくらし展」開催の時期ということもあり、3 校から博物館を利用していただきました。例年概ね 3 - 4 校で推移しています。今年度は小学校長会で PR を行ったことと、

小中学校教職員と地域コーディネーターを対象とした常設展示のPR（解説会）を行った関係で、お向かいの葛塚東小学校が新たに利用してくれました。

「ふるさと学習」で博物館を訪れてくれた3年生が、4年生になって「こども博物館」に参加してくれるようになることを期待しています。

（本間委員）

講座・教室という項目で、「市民ガイド研修」、「博物館まつり」、「はんこで遊ぼう!」、「こども博物館」、「ふるさと学習」、「講師派遣」という6つが挙げられていますが、博物館として重点的に取り組んでいるものはどれですか。

（頓所館長）

博物館では、この3年間「特色ある区づくり事業」としての常設展示リニューアルが重点事業としてありましたので、それに関連する事業が中心となりました。今年度はグランドオープンに伴い、市民ガイドの養成・発足・研修、そして学習ノートの活用、こども博物館といったものです。「区づくり事業」は今年度で終了しますが、ここで終了ということではなく、ここから継続、発展させていくための始まりです。ご理解とご協力をお願いいたします。

（鈴木委員）

さきほど区庁舎への移転についての説明の中で、「他館と比べて」とか「他館の入館数と比べて」とかという話題が出て、それに対して規模や性格の異なる館とは比べられないという意見が出されました。確かにそうです。私は、この館がリニューアルしてどう変わったのか、入館者が昨年度とくらべてどう変わったのか、事業を行ってどう変わったのか、といった館の中での整理整頓が必要なのではないかと思います。この事業は参加者が少ないから中止して他の事業を考えようとか、この事業は参加者が増えたから継続しようとか、そういうことを考えるための整理です。

リニューアルしたばかりなのにもう移転問題が出てくるというのは、リニューアルしたこと自体が周囲に伝わっていないのではないかと思います。館の活動をきちんと記録して、残して伝えていく必要があるのではないのでしょうか。

（頓所館長）

「博物館だより」では、月別の入館者数や、事業ごとの記録として残しています。これは他の文化施設や学校、行政、あるいは関係者に送付しています。

（寺山副館長）

いつも単年度の記録を報告していただきますが、前回、前々回との比較がほしいですね。そうすれば、これは人数が増えているから支持されているとか、少ないから他の事業に変えようかといった検討資料にもなります。入館状況も、去年はどうだったのか、同じ月ではどうだったのか、という比較できる資料がほしいです。

（神田学芸員）

その資料を作成することは可能です。企画展や事業について、毎年度同じものを同じ時期にやっているのであれば、「前は〇人でしたが、今回は〇人でした」、「昨年〇月の入館者は〇人でしたが、今年〇月の入館者は〇人でした」と、比較をすることは比較的容易なことだと思います。しかし例えば、「書」の企画展でも「上田桑鳩展」は初めての企画ですし、開催時期は2月—3月です。昨年度は、同じ「書」でも「弦巻松蔭展」で、開催

時期は6－7月、11月－1月でした。また、常設展拡大としての企画自体も今年度初めての試みですから「昭和のくらし展」も初めてです。昨年度はこの時期に、「弦巻松蔭展Ⅱ」をやっていました。これを単純に比較することがどうかという問題があります。また、「こども博物館」については、参加人数が少ないので、6人が5人になったから減ったとか、2人が3人になったので増えたという比較が妥当かどうか、ということもあります。

(寺山副会長)

例えば、毎年度行っているような事業でしたら、去年は何人とか、()で示して下さるといことはお願いできますか。知りたいと思います。

(神田学芸員)

わかりました。

(杉本会長)

単純に数字だけで比較するのは難しいところですね。

(2) 平成 29 年度 新潟市北区郷土博物館事業計画について

(頓所館長)

平成 29 年度 新潟市北区郷土博物館事業について、<資料 2>に基づいて説明。

<質疑応答>

(杉本会長)

今年度の事業報告について、何か質問やご意見はありますか。

(伊藤委員)

「昭和のくらし展 2」の開催時期が、小学校 3 年生のふるさと学習の時期と合致しているなあと思いました。より充実した企画となることを期待します。市民ガイドについても学校との連携を将来的に検討してほしいと思います。

(阿部委員)

羽越水害の 50 年展が開催され、同時に「北区の水害」が常設展拡大企画として併催されるのですが、北区についていえば、災害の規模は、7.17 水害の方がはるかに規模が大きい。その冊子が残っています。ぜひともパネル化してみせてもらいたいと思います。

(曾部囑託員)

「7.17 水害」も「8.28 水害」も旧豊栄町が発行したものがございます。冊子のパネル化ということですがスペースの問題があるかと思います。冊子の現物は古く、当館所蔵のものは状態が良くないのですが、例えばコピーしたものを、自由にご覧いただくことは可能かと思います。これらの水害については、現在北区となっている新潟市の濁川地区も大変な被害があったにもかかわらず、同様の冊子は作成されていませんし、新潟市の行政文書も残っていないという事情があります。文字資料が豊栄の資料だけでは、現在の北区全体をカバーすることが難しく、豊栄のものばかりで展示を構成することが良いことなのか、悩ましいところです。

(阿部委員)

7.17 水害は大変な災害でしたが、その記憶が薄れてきています。せっかくの機会ですから、なんとか冊子のパネル化をお願いしたいところです。

(杉本会長)

確かに記憶が薄れてきていますね。どなたかに話をお伺いする機会を作るというのはどうでしょうか。

(頓所館長)

水害展につきましては、県主催の巡回の一環としての展示です。関連事業としてシンポジウムも開催される予定と聞いております。

(阿部委員)

横井の丘ふるさと資料館は、耐震診断により倒壊の恐れがあるときいていますが、この施設の今後についてどう考えていますか。

(頓所館長)

横井の資料館については、来館者の安全性、保管する資料の安全性を考慮し、従来の公開方法を中止することになりました。ただ暫定的には、機会を設けて公開するというやり方を当面はとろうと思っています。

(小島委員)

この博物館は、子どもたちのためにいろんな事業を展開しています。それは北区にとって非常に大切なことだと思っています。平成も29年経ちますと、昭和の時代を知らない教員がいっぱいいます。昭和のくらし展は、子どもたちの前に教員が学ぶべきかと思います。社会科担当教諭や小学校3年生の担任教諭といった方々と連携が重要になっていくと思います。この博物館はがんばっていますが、まだ北区全域には周知されていません。利用するのは特定の学校に限られてしまっています。

もう一点、北区文化財保護事業の文化財説明板の関係についてです。新潟市松浜に西郷隆盛が一月滞在しました。ところが太夫浜に、西郷隆盛の宿営地の一つという説明板が、博物館の名前で設置されています。しかし実際は、太夫浜には1泊か2泊しかしていないようです。本文にはそのことはきちんと書かれてあるのですが、説明板のタイトルだけみますと誤解をされる恐れがあります。実際に滞在した松浜にこそ説明板を設けるのがよいのではないかと思います。

(杉本会長)

だいぶ時間が超過しましたが、これで議事を終了します。

6 その他

(1) 委員の任期満了について

(頓所館長)

皆さま本日は長時間にわかりご審議をいただきありがとうございました。

協議会委員の皆さまにおかれましては、この3月31日をもちまして任期満了となります。今期で3名の方が退任となります。3名の方々にはほんとうにお世話になりました。改めて御礼申し上げますとともに、今後とも博物館を応援していただけますようお願いいたします。

7 閉会